

令和元年10月25日

芦屋市議会議長 中島 健一 様

総務常任委員長 ひろせ 久美子

総務常任委員会 行政視察報告書

本委員会は、下記のとおり行政視察を実施しましたので、報告します。

記

- 1 日 程 令和元年10月17日（木）～10月18日（金）
- 2 視察先及び
視察項目 まちづくり推進協議会の取り組みについて（佐賀県鳥栖市）
クラウドサービス・AIを活用した働き方改革について
（熊本県熊本市）
- 3 参加者 総務常任委員会
委員長 ひろせ 久美子
副委員長 田原 俊彦
委員 川上 あさえ、寺前 尊文
たかおか 知子、松木 義昭、青山 暁
随 行 市議会事務局議事調査課 湯本 俊哉
- 4 視察報告書 別紙のとおり

以上

2019 年度 総務常任委員会 行政視察報告書

| | |
|-----------------------|---|
| 視 察 日 時 | 2019 年 10 月 17 日 (木) 午後 1 時 30 分 ～ 午後 3 時 |
| 視 察 先 | 佐賀県鳥栖市 |
| 視 察 内 容 | まちづくり推進協議会の取り組みについて |
| 視 察 目 的 (視察先選定理由) | 「市民が主役のまちづくり」を基本理念に掲げ、まちづくりを進めておられること、また、「まちづくり」を進めるにあたり、担い手の確保や人材育成の取り組みを積極的にされておられることなどについて、今後の参考とするため。 |
| 調 査 概 要 | <p>平成 22 年 2 月 8 日に地域づくりのあり方に関する提言が行われ、鳥栖市まちづくり検討委員会が立ち上がり、鳥栖市の「まちづくり推進協議会の取り組み」は、第 6 次鳥栖市総合計画（平成 23 年～令和 2 年度）に基づき、「住みたくなるまち 鳥栖」（鳥栖スタイルの確立）として進められています。7 つの小学校校区で立ち上げ、それぞれの地域の特性を生かしながら進められています。</p> <p>(1)基本理念「まちづくりの主役は市民」を実践するにあたり、基本構想として、職員の支援、活動拠点の提供、組織の見直しなど、PTA や子ども会、老人クラブや区長会といわれる自治会、消防団や地元企業など、様々な団体とともに 10 年後の将来像を見据えながら活動をされています。補助金についても、使途に自由性を持たせた包括的交付金の検討を行うなどの工夫をされています。</p> <p>(2)担い手確保や人材育成については、課題も多々ある中で「担い手育成講座」の開催や地元の歴史を伝えていく取り組み、クリーンアップなどの環境美化、防犯パトロールなどを通じた安全安心なまちづくり、ウォーキングイベントなどの健康福祉などの交流の場を設け、地元を大切に思うことで次の世代につなげています。</p> <p>(3)まちづくり推進協議会の設立による効果として、地域の状況に応じた活動が実施されていたり、地域の連携が強化されてきて、世代間の交流や連帯が促進されているとの報告がありました。しかし、まだ地域で周知されていない面もあり、課題解決に向けて取り組むということでした。</p> |
| 所 感 (意見・感想・今後の課題等) | 鳥栖市での「市民が主役のまちづくり」を基本に進められているまちづくり協議会の取り組みは、市職員の 6～7 割が市内在住ということもあり積極的な関りが期待できる点は魅力でした。また、それぞれの団体が参加し協議会を運営することで世代間交流もでき高齢化社会の中での担い手づくりができる点は参考になりました。拠点があることは羨ましく、芦屋市でも集会所などをうまく活用して「市民が主役にまちづくり」ができればと思いました。 |

2019 年度 総務常任委員会 行政視察報告書

| | |
|-----------------------|--|
| 視 察 日 時 | 2019 年 10 月 18 日（金） 10 時 00 分 ～ 11 時 30 分 |
| 視 察 先 | 熊本県熊本市 |
| 視 察 内 容 | クラウドサービス・AI を活用した働き方改革について |
| 視 察 目 的 (視察先選定理由) | 熊本市では全国でも先駆けて AI を活用した働き方改革を推進されており、AI を活用した職員の意識や市役所業務の生産性の向上などについて参考にするため。 |
| 調 査 概 要 | <p>2016 年に起こった熊本地震をきっかけに、デジタルトランスフォーメーションによる働き方改革推進で日本マイクロソフト社と連携し進めています。</p> <p>熊本市における「デジタルトランスフォーメーション」は仕事に取り組むにあたり、「自ら考え、自ら見直し、自ら行動する」姿勢に変革し、職員間の情報交換の活性化や迅速な意思決定により、行政サービスの質の向上や市民に寄り添った行政サービスを推進し、「上質な生活都市」の実現のために市民や職員の満足度を向上させるために取り組んでおられます。</p> <p>熊本市で AI を活用することで、人の資源に限られる中で多様化している仕事の中で施策立案などに人を配置することや人に関することに職員を配置することを目的としていることから、AI 活用で働き方改革を正しい方向へ推進させようと努力されています。</p> <p>活用に際しての課題は、職員個人でスケジュールなどの入力を行わなければならないため、活用に至らない職員もいるということでした。活用啓発にも努めておられるとのことでした。</p> <p>西日本豪雨災害支援でのクラウドの活用で、①避難所間での情報共有、②避難所職員から本庁への活動報告、③熊本地震による教訓の情報発信、④避難所掲示資料の提供などに活用されています。</p> |
| 所 感 (意見・感想・今後の課題等) | <p>熊本市では議会で ICT を活用したのは今年度ということで、芦屋市のほうが先進であることが分かりました。熊本市が導入している AI の活用では、まだ職員の意識が広がっていないため、全職員の働き方が改革されたとは言いがたいですが、業務の中で単純な作業の効率化は図れるということが理解できました。</p> <p>活用には多額な費用が必要になることから芦屋市の財政規模からみて導入については厳しい道のりであろうと思われました。AI の導入により「働き方の気づき」があるということでしたが、AI に頼りすぎること個人判断が鈍らないか、活かしていけるのかなど課題も多いということが分かりました。</p> |

視察の様子（令和元年度 総務常任委員会）

視 察 先 ①

10月17日
佐賀県鳥栖市



鳥栖市役所を訪問しました。



鳥栖市市民協働推進課の職員の方にご説明をいただきました。

視 察 先 ②

10月18日
熊本県熊本市



熊本市役所を訪問しました。



熊本市情報政策課の職員の方にご説明をいただきました。